

平成23年度病害虫発生予察情報 特殊報第2号

平成23年9月6日
岩手県病害虫防除所

ヒメボクトウの発生について

1. 発生状況

- (1) 平成22年8月、岩手県花巻市のりんご園で枝幹部から虫糞や木くずが出ている被害樹が確認された。被害枝を調べたところ、赤紫色のチョウ目幼虫が多数確認された。農林水産省横浜植物防疫所にこれらの幼虫の同定を依頼したところ、ボクトウガ科の1種であることが判明した。同様の被害は一関市の日本なし園でも認められ、やはり赤紫色のチョウ目幼虫が多数確認された。
- (2) 平成23年6月、花巻市のりんご園及び一関市の日本なし園にヒメボクトウのフェロモントラップを設置したところ、7月から多数のチョウ目成虫が誘引された。これらの成虫の同定を農林水産省横浜植物防疫所に依頼したところ、ヒメボクトウ *Cossus insularis* (Staudinger) であることが判明した。
- (3) ヒメボクトウによると思われる被害は県南部を中心に広く見られている。

2. 形態と生態

(1) 形態的特徴

成虫：前翅を開いた長さは、40～60mm。前翅は灰褐色で黒い波状の線が複数見られる。ほぼ全身が鱗粉で被われている。触角は糸状である（図1）。

幼虫：背側が赤紫色～赤褐色を呈している。体長は10mm～40mm程度（図2、図3）。

蛹：初めは明るい茶色から黄褐色を呈し、羽化が近づくと濃い茶色に変化する。羽化時は蛹が体長の3分の2ほどを樹木表面からその外側に出し、羽化後は蛹殻が樹上に残る（図4）。



図1 フェロモントラップに誘引されたヒメボクトウの成虫



図2 ヒメボクトウの幼虫



図3 粗皮下の若齢幼虫

(2) 生態

卵は樹皮の割れ目などに卵塊で産下される。ふ化幼虫は卵殻を摂食した後、枝や幹に食入する。樹木に食入する昆虫としては珍しく集合して生息する。幼虫で越冬し、羽化までに1～2年要すると推測されている。本県では平成23年フェロモントラップを設置したところ7月下旬から8月上旬にかけて誘引の盛期が確認された（図5）。



図4 樹上に残った羽化殻

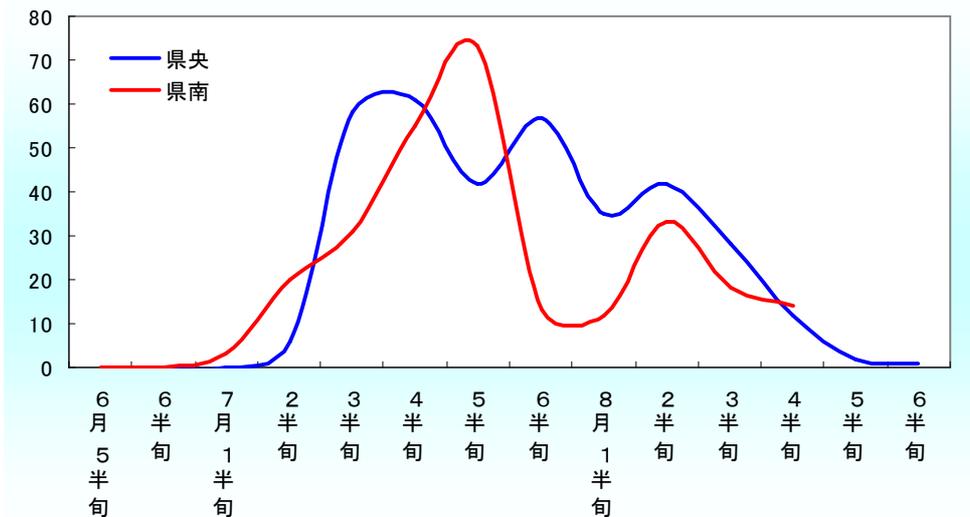


図5 岩手県におけるフェロモントラップによる誘引消長(平成23年)

(3) 被害

本種により被害を受けた木は幼虫の穿入口から木くずと虫糞が混ざったものを排出し(図6)、その部分からは発酵臭がする。幼虫が集団で食害するため、樹幹内部が空洞となり(図7)、樹勢が低下し、被害が多いと枯死する。



図6 ヒメボクトウによる被害



図7 ヒメボクトウによる被害(断面図)

(4) 寄主植物

これまではポプラやヤナギなどでの寄生が確認されていたが、2005年に日本なしにおける被害が確認(西(2005))、その後りんごにおける被害も確認されている。

3. 防除対策

- (1) 被害を受けた枝や主枝は、その中に幼虫が集団で生息しているので、新たな発生源とならないように早期に除去する。
- (2) 粗皮の間隙が産卵場所となるので、粗皮削りを行う。
- (3) 薬剤防除は、りんご、なしではスタイナーネマ・カーポカプサエ剤(商品名バイオセーフ)を幼虫発生期に使用する。

【情報のお問い合わせは病害虫防除所まで】

TEL 0197(68)4427 FAX (68)4316

☆この情報は、いわてアグリベンチャーネットでもご覧いただけます。

アドレス <http://i-agri.net/agri/>

農薬使用の際には (1)使用基準の遵守 (2)飛散防止 (3)防除実績の記帳 を徹底しましょう